領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
地域・在宅看護論	暮らしの理解と健康Ⅰ	1	15	1	1	院外講師 専任教員

科　目　目　標
人々の暮らしを理解し、暮らしの拠点となる地域のボランティアや互助組織の活動を知り、人々が支え合って生きることの重要性を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：暮らすということ ・子供を生み育てる ・学ぶ、働く ・病を治す ・老いとともに生きる ・最期を迎える 支えあって生きるとは ・家族、仲間、近所の人々 ・学校や職場、支え合い 支えあって生きるとは 2回目：地域のさまざまな活動 ・子育て支援 ・福祉・見守り ・環境美化 ・防災・防犯 ・世代間交流 ・広報・回覧　など 3回目：久居地域のさまざまな活動について① 久居地域の地域活動 ・ボランティア組織 ・自治会、互助組織 活動内容、活動場所、活動日時等 4回目：久居地域のさまざまな活動について② 5回目：久居地域のさまざまな活動の実際③（フィールドワーク） 6回目：久居地域のさまざまな活動の実際④（グループワーク） 7回目：久居地域のさまざまな活動の実際⑤（グループワーク） 発表資料作成 8回目：発表・共有・意見交換・まとめ(45分)	・居住地である久居地域のボランティア活動や互助組織についてインターネット等や既存の資料を活用して調べ共有する。 ・5回目は、久居地域にフィールドワークを行い、地域の活動についてインタビューを行う。 ・6・7回目ではその活動内容についての発表資料を作成する。 ・8回目では作成した資料に基づき発表し、共有する。 ・夏休み期間中に地域のボランティア活動に参加し、レポートを作成する。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
新体系看護学全書 「地域・在宅看護論」　メヂカルフレンド社	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習、グループワーク	授業への参加状況 発表資料、レポート等

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
地域・在宅看護論	暮らしの理解と健康Ⅱ	1	15	1	2	院外講師 専任教員

科　目　目　標
地域の特性、生活環境を知り、 それらが健康に与える影響を理解する。

講　義　内　容	留意点等
1回目：地域の特性、生活環境が健康に与える影響 気候、交通、歴史、食習慣、社会資源、平均寿命、健康状態、人口密度 性別構成、年齢構成、高齢化率、県民性、経済力、職業構成　等 文化的環境、社会的環境、自然環境、地域特性、 生活環境と健康課題の関連 2回目：津市の地域特性・生活環境の実際　①（地域別グループワーク） 津地域中央部・西部、久居地域東部・西部 香良洲地域、安濃地区、美杉地域 地域特性、生活環境が健康に与える影響、行動計画作成 3回目：津市の地域特性・生活環境の実際　②（地域別グループワーク） 津地域中央部・西部、久居地域東部・西部、 香良洲地域、安濃地区、美杉地域 地域特性、生活環境が健康に与える影響、行動計画作成 4回目：津市の地域特性・生活環境の実際　③(地域別グループワーク) 津地域中央部・西部、久居地域東部・西部、 香良洲地域、安濃地区、美杉地域 地域特性、生活環境が健康に与える影響、フィールドワーク 5回目：津市の地域特性・生活環境の実際　④(地域別グループワーク) 津地域中央部・西部、久居地域東部・西部、 香良洲地域、安濃地区、美杉地域 地域特性、生活環境が健康に与える影響、フィールドワーク 6回目：津市の地域特性・生活環境の実際　⑤(地域別グループワーク) 津地域中央部・西部、久居地域東部・西部、 香良洲地域、安濃地区、美杉地域 地域特性、生活環境が健康に与える影響、発表資料作成 7回目：津市の地域特性・生活環境の実際　⑥(地域別グループワーク) 津地域中央部・西部、久居地域東部・西部、 香良洲地域、安濃地区、美杉地域 地域特性、生活環境が健康に与える影響、発表・共有・意見交換 8回目：まとめ(45分)	・グループ毎にフィールド調査やヒヤリング、統計データを用いて地域特性、生活環境について調べ、健康に与える影響について考える。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
新体系看護学全書 「地域・在宅看護論」　メヂカルフレンド社	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習、グループワーク	授業への参加状況 発表資料、レポート等

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15	2	1	院外講師

科　目　目　標
地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、他職種と協働する中での看護の役割を理解する。

講　義　内　容	留意点等
1回目:在宅看護の変遷と在宅看護の対象 ・日本の在宅看護の歴史と現状 ・在宅看護を必要とする背景 在宅看護の対象 ・国民の価値観 ・疾病がある者と家族 ・障害がある者と家族 ・疾病や障害がある者の社会参加 在宅ケアと在宅看護 ・在宅チームケアの意義 ・在宅ケアチームにおける看護師の役割 2回目：在宅看護の倫理と基本理念 在宅看護における権利の保障 ・アドボカシー ・虐待防止 ・個人情報の保護と管理 ・サービス提供者の権利の保護 在宅療養者の自立・自律支援 ・価値観の尊重と意思決定支援 ・ＱＯＬの維持・向上 ・セルフケア ・社会参加への援助 3回目：在宅療養者の家族への支援 ・家族の介護力のアセスメントと調整、家族関係の調整 ・家族の介護負担とその軽減 ・ケア方法の指導 ・介護者の健康 ・レスパイトケア 4回目：在宅療養を支える制度と社会資源 社会資源とは 在宅療養を支援する仕組み ・在宅医療・介護に関する仕組み ・地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムにおける多職種連携 5回目：在宅療養を支える看護 ・保健所・市町村保健センターにおける看護活動 ・地域包括支援センターにおける看護活動 ・入所施設・通所施設における看護活動 ・訪問看護 ・外来看護 6回目：療養の場の移行に伴う看護活動① 医療機関との入退院時の連携 ・地域連携クリニカルパス ・外来・病棟・退院支援部門・診療所 7回目：療養の場の移行に伴う看護活動② 施設との入退院時の連携 ・介護保険施設等の公的施設 ・サービス付き高齢者向け住宅などの民間施設 8回目：試験(45分)	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
新体系看護学全書 「地域・在宅看護論」　メヂカルフレンド社	看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術　メヂカルフレンド社

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
地域・在宅看護論	地域・在宅援助方法	1	15	2	2	院外講師

科　目　目　標
在宅で療養する対象者の看護方法を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：訪問看護の概要 ・訪問看護の変遷と課題 ・訪問看護の提供方法、種類 ・訪問看護サービスの仕組みと提供 （開設基準、訪問看護サービス開始までの流れ、利用料訪問看護サービスの展開・質保証・管理・経営） 2回目:訪問看護制度の法的枠組み ・健康保険法、介護保険法、高齢者を支える取り組み・法律 ・公費負担制度（障害者総合支援法・難病法・小児慢性特定疾病医療費助成制度　等） ・精神科訪問看護 3回目:訪問看護におけるチームケア ・多職種との連携・協働、看護師同士の連携、役割 4回目：在宅看護における安全と危機管理 ・日常生活における安全管理 （家屋環境の調整、 転倒・転落の防止、誤嚥・窒息の防止熱傷・凍傷の防止、熱中症の予防、閉じこもりの予防、 独居高齢者の防災） ・災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 （在宅療養者・家族への防災対策の指導、医療機関との連携による医療上の健康危機管理、福祉機関との連携による生活上の健康危機管理、行政（市町村・消防署・警察等）との連携） 5回目：在宅療養者の病気に応じた看護 ・日常生活動作の低下予防、疾病の再発予防が必要な療養者 ・急性期にある療養者 ・慢性期にある療養者 ・回復期(リハビリテーション期）にある療養者 ・終末期にある療養者、グリーフケア 6回目：在宅療養において特徴的な疾患がある療養者への看護 ・小児の在宅療養者 ・認知症の在宅療養者 ・精神疾患がある在宅療養者への看護 7回目:難病がある在宅療養者への看護 ・ＡＬＳ患者の看護と援助技術、在宅看護支援 ・筋ジストロフィー症患者の看護と援助技術、在宅看護支援 ・重症心身障碍児の看護と援助技術、在宅看護支援 8回目：試験(45分)	国立病院機構が担う政策医療看護の在宅における看護方法を学ぶ。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
新体系看護学全書 「地域・在宅看護論」　メヂカルフレンド社	看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術　メヂカルフレンド社

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
地域・在宅看護論	地域・在宅援助技術	1	15	2	2	院外講師

科　目　目　標
在宅看護で活用する看護技術の実際を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目:在宅看護過程の展開 ・看護過程の基本的な考え方 ・在宅特有の看護過程 2回目：在宅看護過程の実際 事例による展開 3回目:在宅における日常生活支援 ・栄養状態改善の援助・食事の援助 ・清潔の援助・移動の援助・排泄の援助（ストーマケア含む） 4回目:在宅における医療管理を必要とする人と看護① ・薬物療法、疼痛緩和 ・化学療法、放射線療法 5回目：在宅における医療管理を必要とする人と看護② ・在宅酸素療法（ＨＯＴ） ・在宅人工呼吸療法 ・非侵襲的陽圧換気療法 6回目:在宅における医療管理を必要とする人と看護③ ・膀胱留置カテーテル法 ・腹膜透析（ＣＡＰＤ） ・胃瘻、経管・経腸栄養法 ・輸液・在宅中心静脈栄養法 7回目:褥瘡管理 ・褥瘡発生のリスクアセスメントと予防、処置 ・除圧・体位変換に関する器具の種類と選択 8回目：試験(45分)	演示 在宅での褥瘡 予防 除圧 ポジショニング

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
新体系看護学全書 「地域・在宅看護論」　メヂカルフレンド社	看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術　メヂカルフレンド社

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演示	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
地域・在宅看護論	地域・在宅援助論演習	1	15	2	2	院外講師

科　目　目　標
多職種との連携の中で在宅看護の役割を学ぶ。

	留意点等
1回目：地域で生活し続けることを支援するためのマネジメント 自己決定支援（ＡＣＰ含む） ケアマネジメントの必要性 ケアマネジメントの過程 ニーズのアセスメント ニーズに合わせたサービスの選択・計画 サービスを結びつける調整 実施、モニタリング、評価、フィードバック インフォーマルネットワークの維持 2回目：在宅における対象別看護① 長期臥床療養者の在宅看護 3回目：在宅における対象別看護② 難病療養者に対する在宅看護 4回目：在宅看護における対象別看護③ 精神障がい療養者に対する在宅看護 5回目：在宅看護における対象別看護④ 小児と家族に対する在宅看護 6回目：在宅看護における対象別看護⑤ がん療養者に対する在宅看護 7回目：在宅看護における対象別看護⑥ まとめ 8回目：試験(45分)	・各回のテーマ（紙上事例）については事前に提示する。理解するための疾患や看護の基本的な知識は各自が相応の準備をし、授業では在宅におけるケアマネジメントについて議論できるようにする。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
新体系看護学全書 「地域・在宅看護論」　メヂカルフレンド社	看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術　メヂカルフレンド社

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験 20% 個人・グループでの課題 80%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
看護の実践と統合	看護論	1	30	3	1	専任教員

科　目　目　標
看護理論から専門的な視野を広げ、自己の看護観を深める。

講　義　内　容	留意点等
1回目：　看護理論の目的と考え方 　　主な理論家の考え方① 2回目：　主な理論家の考え方② 3回目：　主な理論家の考え方③ 4回目：　主な理論家の考え方④ ※主な理論家；ナイチンゲール、ヘンダーソン、ペプロウ、 　トラベルビー、ワトソン、オレム、ロイ、 　ベティ・ニューマン、ベナー 5回目：　看護研究の意義、研究デザイン 6回目：　ケーススタディの意義 　　看護研究の計画とプロセス 7回目：　テーマ選定、計画書の書き方 　　文献検索の方法、文献のクリティークの視点・ 　　方法 8回目：　研究計画書・文献検索の実際 9回目：　患者の見方、記録 　　ケーススタディの留意点と原則 　　ケーススタディの限界と倫理的配慮 　　レポートのまとめ方 10～14回目：ケーススタディの実際 15回目：　発表の仕方・試験	＊2～４回GW・プレゼンテーションを行い、対象理解・看護実践の振り返りについて学びます。 テキスト・発表資料に目を通し、受講する。 ＊ケーススタディは夏季休業前までに１例まとめる ケーススタディに取り組むにあたり、看護学概論や成人・老年看護学概論などで学んだ概念を看護を深めるために活用する。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「ケースを通してやさしく学ぶ看護理論」日総研 「はじめの一歩からやさしく進める 　　かんたん看護研究」南江堂 「わかりやすいケーススタディの進め方」　照林社	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク、レポート作成	グループワーク・プレゼンテーション　10% ケーススタディレポート 75% 筆記試験　15%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
看護の実践と統合	医療安全	1	15	3	1	院内講師

科　目　目　標
医療安全に必要な知識を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：医療安全と看護の理念 医療安全の意味とその重要性 看護職の法的規定と医療安全 2回目：医療安全への取り組みと医療の質の評価 医療事故の報告制度 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 3回目：事故発生のメカニズム 事故分析 ・医療事故・インシデントレポートの分析と活用 ・RCA（根本原因分析） 事故対策 ・KYT（危険予知トレーニング） 4回目：患者・家族との協働と安全文化の醸成 事故対策 ・KYT（危険予知トレーニング） 5回目：時系列関連図作成 6回目：事故分析 RCA（根本原因分析） 7回目：看護における医療事故と安全対策 看護業務と事故発生要因 医療事故の種類：その分析と対策 ・誤薬、患者取り違え（誤認）、針刺し、転倒転落 誤嚥、チューブ類のトラブル、電子カルテ等情報伝達時のトラブル（情報伝達と共有・管理） 在宅看護における医療事故と安全対策 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 医療事故後の対応 8回目：試験(45分)	演習： RCA、KYTについてグループワークを行う。 針刺し事故防止の対策・事故後の対応 インシデント、アクシデント発生時の速やかな報告

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践②「医療安全」　メディカ出版	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
看護の実践と統合	統合演習Ⅰ	1	30	3	1	専任教員

知識・技術・態度を統合し、複合的に提供されている看護の状況や、複合的な状況にある対象に合わせ適切な判断・対応ができるよう、看護の実践力を身につける。

講　義　内　容	留意点等
1回目：同時に複数課題が生じた際の優先順位の考え方 SBARとは 2回目：一人の対象〈事例Ⅰ〉に実施すべき援助計画の立案 3・4回目：〈事例Ⅰ〉援助の実施 複数の看護技術の実施 5回目：〈事例Ⅰ〉割り込み状況への対処 臨床判断 気づく・解釈する・反応する・省察する 対象の状況に応じた観察 優先順位の決定 時間管理 対象への説明と同意 他のメンバー・リーダー・他職種との調整 自己の能力の査定 6回目：〈事例Ⅰ〉評価・修正 一人の対象〈事例Ⅱ〉に実施すべき援助計画の立案 7回目：〈事例Ⅱ〉援助の実施 8回目：〈事例Ⅱ〉割り込み状況への対処 9回目：〈事例Ⅱ〉評価・修正 複数の対象への援助 状況判断 対象の状況に応じた観察 10回目：複数の対象〈事例Ⅲ〉に実施すべき援助計画の立案 11・12回目：〈事例Ⅲ〉援助の実施 13回目：〈事例Ⅲ〉割り込み状況への対処 14回目：〈事例Ⅲ〉評価・修正 15回目：まとめ	演習： ・ペーパーペイシェントを用いた看護計画と実践（一人の対象及び複数の対象） ・複数の看護技術の実施（酸素吸入療法、輸液ポンプの操作） ※報告・連絡・相談時はSBAR（状況・背景・判断・提案）を活用する。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
講師の資料	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	演習への参加状況、レポート等

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
看護の実践と統合	統合演習Ⅱ	1	15	3	2	専任教員

知識・技術・態度を統合した看護実践力を活用し、複合的に提供されている看護の状況や、複合的な状況にある対象に合わせ科学的根拠に踏まえ、状況に応じた判断・対応を行う。

講　義　内　容	留意点等
1回目：急変時の対応が必要な対象（事例1-1）への対応 事例に関する知識・看護技術の確認（演習） 2回目：事例1-1の実践 3回目：事例1-1の評価・修正・自己の課題の明確化 4回目：状態が変動しやすい対象（事例1-2）への援助 事例に関する知識・看護技術の確認（演習） 5回目：事例1-2の実践 6回目：事例1-2の評価・自己の課題の明確化 7回目：まとめ	演習： ・事例は動画、模擬患者のため対象に応じたその都度思考・判断が必要となる。そのため、症状に対する解剖生理学・病態・基本的な看護の知識は個々で学習を行う。 ・複数の看護技術の実施 基本的な日常生活援助技術・診療の補助技術は、根拠を踏まえ、繰り返し個々に練習を行う ・実践は録画し、実践後の省察に役立てる ※援助中の自己の思考・判断は、思考発話として述べる。 ※報告・連絡・相談時はSBAR（状況・背景・判断・提案）を活用する。 ※肺癌患者の看護で、事例展開を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
なし	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術

主とする授業形態	評　価　方　法
演習	演習への参加状況、パフォーマンス レポート等

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
看護の実践と統合	看護マネジメント	1	30	3	1	院内講師 専任教員

科　目　目　標
看護マネジメント能力を身につけ、他職種との連携や様々な医療活動での看護職の役割について理解する。

講　義　内　容	留意点等
1回目：看護管理過程 組織とマネジメント 看護管理 組織とその構造 看護師の仕事とその管理 1.勤務体制 2.重症度、看護必要度 3.情報の管理 看護業務管理 1.看護業務基準 2.看護手順 2回目：看護の質保証と看護管理① 看護サービスの組織化 組織で取り組むケアの改革 1.看護の専門性と多職種連携 2.クリニカルパス 3回目：看護の質保証と看護管理② 患者の権利擁護と看護管理 安全管理体制 看護実践の評価と改善 1.病院機能評価 4回目：看護管理のスキル 組織の効率化を高める技術 5回目：看護と経営 病院の組織と看護部門 経営とは 病床機能報告 診療報酬制度 6回目：看護職と生涯学習 認定・専門看護師の資格と活動 継続教育、キャリア開発 特定行為に係る看護師の研修制度 7回目：看護に関する法律・制度 看護と法令 看護と行政 8回目：災害看護 災害とは 災害看護とは 災害の種類と特徴 自然災害 人為的災害 特殊災害 複合災害 9回目：災害医療に関する国の政策と法律 災害医療に関する国の政策 災害に関する法律 10回目：災害各期の看護① 静穏期（減災・防災マネジメント） 初動時（超急性期・急性期）における看護活動 医療救護所（急性期）における看護活動 避難所（急性期）における看護活動 11回目：災害各期の看護② 応急仮設住宅（慢性期）における看護活動 復興期の看護活動 要援護者への看護 12回目：国際看護とは 国際社会の現状と国際看護活動の課題 国家・地域間の健康格差 ミレニアム開発目標 人間安全保障 諸外国における看護制度 13回目：国際看護活動の支援を必要とする対象 在日外国人への看護活動 在日外国人の保健医療問題 在外日本人・帰国日本人 保健医療分野における国際機関 国としての国際協力活動 国際看護活動を推進する人々 14回目：異文化理解と国際看護活動 文化を考慮した看護 国際看護活動を推進する人と機関 15回目：まとめ・試験	14回目の内容は、JICA職員より講義をうける。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践①「看護管理」 看護の統合と実践③「災害看護」メディカ出版 新体系看護学全書 看護の統合と実践３「国際看護学」メヂカルフレンド	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験